

おおつかん
大津勘のビーチロック

【所 在 地】大島郡知名町大津勘185-1

【種 別】県指定天然記念物

【指定年月日】平成24年4月20日



大津勘のビーチロック



中部層に見られる斜交葉理

一般にビーチロックは熱帯から亜熱帯のサンゴ礁の発達する沿岸浅海域の砂浜にみられ、有孔虫殻やサンゴからなる砂礫が固結した石灰質岩のことである。セメント物質はおもに炭酸カルシウムからなる。

大津勘のビーチロックは、長さ約200メートル、最大幅約20メートルにわたって露出しており、各層の厚さが10~60センチメートルの3層から構成される。琉球列島の中でも際立つて規模が大きく、典型的な形態が浸食されることなく保たれている。また、琉球層群の石灰岩と接していることから、沖永良部島の最近の構造運動（ネオテクトニクス）を学ぶ場所として極めて重要である。固結度が高いことから、数千年をかけて形成されたと考えられるが、今後、年代の特定はネオテクトニクスを解明するためにも不可欠であろう。さらなる調査研究が期待される。

琉球列島の中でも規模、形態が地形・地質学からみて極めて貴重であること、そして琉球層群との関係を知ることのできる数少ない露頭である。